

あなたの「困った」に、お答えします!

クラブの設立・運営を通して「困ったなあ」「どうしたらいいのだろう」と思ったクラブマネジャーの経験から、7個の「困った事例」を取り上げ、地方企画班員の方々に「あなたのクラブでこんなことが起こった場合、どのような対応をしますか」というお考えを、一般的な事柄も含めて回答いただきました。

【プログラム関連】

Q1：新しいプログラムを検討するも施設がない

設立3年目で、参加者数が減少するプログラムがでてきてしまいました。新たなプログラムの導入を考えていますが、利用できる施設が限られています。そこで施設を使わないプログラムを検討せざるを得ません。どうしたらいいでしょうか。

A

「施設がない」というピンチは、新しいプログラムづくりのチャンスと考えませんか。口で言うほど簡単でなく、御苦労されると思いますが、前向きにイメージーションを働かせて下さい。全国各地の実践例の中にヒントがあるはずです。リサーチしてはいかがでしょうか。

施設を使わないプログラムは、例えば屋外をフィールドとするならウォーキングはすぐできます。健康を切り口にした事業はニーズが高く、話題のノルディックウォーキングを取り入れるのも面白いでしょう。

だれもが使える公園でペタンクやフリスビー。あなたの地域に海があるなら砂浜を活用したプログラムはたくさん作れそうです。住宅街ならオリエンテーリングなどいかがですか。

他団体と連携した事業にも可能性があります。企業や商店街と組んだプログラムは、企業の会議室や空き店舗がフィールドとなります。ヨガや太極拳などは、相手にメリットが伝われば実現できるでしょう。

(伊端隆康 北海道ブロック地方企画班員、るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」)

A

まずは本当に施設がないのか、空いている時間がないかどうか再度調査をしてみてください。学校や公共スポーツ施設以外にも民間の施設や福祉施設なども場合によっては利用できる可能性があります。それでも施設がないということであれば、やはり施設を使わないプログラムを検討していく必要があるかと思います。

しかし、考え様によっては、ピンチはチャンスです。あるクラブでは、屋内で実施していた種目(ヨガや太極拳など)を屋外で実施したところ、予想以上に会員を集めたというケースもあります。

これを機に施設を使わないで実施できるプログラムを本格的に検討してみてもいいでしょうか。

(加藤裕之 関東ブロック地方企画班員、埼玉県クラブ育成アドバイザー)

Q2：同じ教室でも参加者の目的が分かれていく

最初は「体を動かして楽しむ」ことを目的に始めた教室ですが、月日がたつにつれて「上手になりたい」という人がでてきました。話し合って分けて実施しようとしたのですが、最初の目的で始めた人は辞めていきました。このような時、どのように対処すればよいでしょうか。

A 辞めた人は、上手になりたい人も受け入れるという教室の在り方に疑問を持たれたのでしよう。教室の目的を明確にし、それに合ったシステムで教室を運営することが大事ですね。

日常繰り返して行う健康づくりでは、こういうことは起こりませんが、種目を取り入れた場合、上手になりたいと思いがんばるのは、人間の本能です。

質問のようなケースに対処するには、最初からステップアップのコースを設けておくことも、有効でしょう。

教室参加者が自己都合以外で辞めていくのは、何かその教室に問題があるので、原因を探求し、より良い教室を目指し、がんばってください。

(藤川佳久 中国ブロック地方企画班員、SA スポーツクラブ)

A 総合型クラブには、それまで運動やスポーツをやりたいくても何らかの理由で参加できなかった人（潜在人口）が入り始めているのが魅力の一つではないでしょうか。その中で、「体を動かして楽しむ」→「もう少しうまくになりたい」→「試合に参加したい」というニーズが発生してくるのも当然だと思います。

一方、「体を動かしていい汗をかきたい」という方も大勢いると思われます。クラブとしては、そのようなニーズに可能な限り答えていくことが重要だと思います。「初心者」「中級者」「上級者」のような「レベル別プログラム」も検討していく必要があるでしょう。

残念ながら辞めてしまう方には、クラブでの「運動の日常化」が形成できていないと思われます。ただ体を動かすだけではなく、会員同士がおしゃべりをしたり、自分の居場所があればすぐには辞めないと思います。そのような手立てや工夫もクラブ側として必要ではないでしょうか。

また辞めた方に、なぜ辞めようと思ったかを聞き出すことも重要です。クラブに対して何かの不満を抱えているから辞めるのであって、その内容はクレーム的なものもあるかもしれませんが、しっかり聞いてあげることで、スタッフとして気づかなかった何かを発見できるかもしれません。これは現会員にも充分可能性があるもので、今後の参考となると思います。

(前田義朗 四国ブロック地方企画班員、NPO 法人総合クラブとさ)

【スタッフ関連】

Q3：企画のできる人材がほしい

運営委員は18名いますが、実働できるメンバーは半分程度で、新しい企画の立案まで手がまわりません。アイデアを持った人材に運営委員や企画担当になってもらいたいのですが、そのような人材をどうやって探したらいいでしょうか。

A 近いところから考えるとクラブの会員さんやそのご家族の中に良い人材がいなくていいでしょうか？ あるクラブの事例ですが、某大企業の企画担当をされている方や大手広告代理店勤務の方などが会員さんにいたというケースもあります。また、運営スタッフではないですが、指導者においても某国の国立バリエ学校を卒業したという方もいました。まずは身近なところから人材を探してみてもいいでしょうか。

それでも良い人材が見つからない場合は、今度は市区町村圏内で探していくことが考えられます。例えばスポーツ以外のNPO団体などに関わっている方で企画立案運営のノウハウを持っている方は、多数いることと思われます。そういった団体との交流の場などに積極的に顔を出してみるのも一つの手ではないでしょうか。

その他、近隣に大学があれば学生に、子育てサークルがあればそのお母さん達に企画をしてもらうという手法もあります。最後に、皆さんの都道府県の広域スポーツセンターの担当者の方やクラブ育成アドバイザーは、様々な情報を持っています。気軽にご相談してみてもいいでしょうか。

(加藤裕之 関東ブロック地方企画班員、埼玉県クラブ育成アドバイザー)

A 全ての役員（運営委員）に企画力があり、行動力があるのが理想のクラブだと思いますが、なかなかそのようなクラブはないでしょう。逆に、実働メンバーで活動することが意見の集約もしやすいし、スピード感をもって対応できると思います。

クラブ運営を焦ってしまうと、心身ともに疲れてしまいクラブから遠ざかることにもなりかねません。徐々に徐々にクラブ運営を推進する気持ちが大切だと思います。無理なく楽しんでクラブ運営をしていきましょう。

しかし、人材確保もしていかなくてはなりません。地域から人材を確保することは大変なことですが、長期的な展望のなかで行っていきましょう。例えば、市役所（役場）等に勤務する職員は、地域に奉仕するという大きな役割も持っています。クラブはまさしくそのような方々の力を発揮する場だと思います。若い職員を中心に声をかけてみてはどうでしょうか。何らかの力になってくれるかもしれません。

(奥松成安 九州ブロック地方企画班員、いいの夢クラブ)

Q4：若いスタッフを募集したい

20、30代の若い人にクラブ運営の中核を担ってほしいのですが、現在、中高齢者の担い手が多く、若い人が入りにくい雰囲気があります。クラブに関心がある若い人を、どのように募集したらいいでしょうか。採用や運営面で注意点があれば教えてください。

A 実際に、私のクラブの若いスタッフに話をきいたところ、そのスタッフの友達も、既存の総合型地域スポーツクラブは「敷居が高くて入りにくい」とのことでした。クラブ内のスタッフは、自分たちがそんな風に思われているとは夢にも思っていないと思いますが、周りから見ると、組織が硬直化してしまって、みんなのクラブではなくなっている事が多いかもしれません。

まずは、開かれた組織にするため、クラブ内のスタッフの意識変革を行うことが必要ではないでしょうか。

募集については、自分から手を上げてクラブに協力してくれる若い人は少ないですし、募集広告等ではほとんどと言ってよい程、人は集まりません。既存のスタッフ等の関係筋を活用して、いわゆる「一本釣り」に近い形で、若い人に声を掛けまくる事も必要でしょう。

また、誰でも良いというわけではありませんので、しっかりとクラブの理念に共感して、納得したうえでお手伝いいただける方を採用しましょう。後のトラブルも減ると思います。

(関口昌和 中国ブロック地方企画班員、よろずや広島北)

A 若い人を「職員」として募集するのか、「ボランティア」として募集するのかによって大きく回答が異なると思います。職員として採用するならば、雇用条件等の整備が当たり前になるでしょうし、クラブが何を求めるのかという点も明確にする必要があります。

「ボランティア」として、であれば「とにかく声をかけまくる」ことが大切です。中高齢者の担い手の息子さんや娘さん、あるいはお孫さんでも結構です。とにかく声をかけることをためらってはいけません。「やってみない？」から始めればよいと思います。「誰かの役に立ちたい」「誰かに必要とされたい」という若者は増えてきていると思います。

また、ボランティアとして関わる人材が増えれば、その中から職員を目指す人も出てくるでしょう。さらに、ボランティアとして関わった期間が長ければ、職員になって一からクラブを説明するなどの人材育成コストを減らすこともできるでしょう。

(西村貴之 北信越ブロック地方企画班員、NPO 法人クラブパレット)

【役員、指導者関連】

Q5：現場に来ない役員に来てもらいたい

あまり現場に来ない役員で構成される理事会から、「プログラムの廃止」を突き付けられた指導者は納得できず、不満をためています。役員は現場にもっと来てコミュニケーションをとっていただきたいのですが、なかなかそうしてもらえません。

A そもそも「総合型クラブ」を新しく地域に作ろうと考え、集まったメンバーは、これまでの地域スポーツ振興ではダメだと考える人が中心となっているはず。今まで行政ではできなかったことや自分たちのやりたいことをやろうというメンバーや組織が集まり、子どもから高齢者まで地域の誰もが参加できるプログラムやイベントを提供し、世代間交流や地域住民のコミュニティの形成を目指した様々な取り組みを行っているものが総合型クラブだと私は強く思います。

現場を知らない理事が決定権を持ち、プログラムやクラブの方針を決めていくということは、総合型クラブにとって一番重要な会員をないがしろにすることではないでしょうか。

クラブを存続させていくためには、会員と指導者やスタッフとの関係が特に重要だと思います。本当にそのようなメンバーが理事として、クラブの運営にかかわるのであれば、そのクラブはいずれ地域から見放される可能性が高いのではないのでしょうか。

理事にもクラブのサークル等のプログラムの一部を担ってもらい（指導者やスタッフとして役割を与える）、クラブ運営を現場と経営の両面から考えていくような手立てや工夫が必要だと思います。

（前田義朗 四国ブロック地方企画班員、NPO 法人総合クラブとさ）

A 現場に来ない方々が大切な役員なら「プログラム廃止」の声に耳を傾けるのは当然ですが、利用者（会員）の側に立って理不尽な要求なら不満を伝え、継続を訴えるべきです。

役員には「現場に来て」と伝えるべきですが、総合型クラブの設立に深くかかわったものの、現場に行けないという方は全国各地にたくさんいるような気がします。例えば地域の体育協会や体育指導委員（当時）の顔役など、無視するわけにもいきません。

ところで、理事会が突き付けたプログラムの廃止理由は本当におかしいのですか？ 理事会、指導者双方の言い分を聴かずに軽々しいことは言えません。そのことも含め、まずはキーパーソンと主要メンバーで善後策も含め協議することが出発点と考えます。

問題解決の道は、遠回りでも誠実に話し合うしかありません。理事会が本当に顔も出さずに現場の声を無視するなら、理事会のあり方や人選を再検討すべきでしょう。

（伊端隆康 北海道ブロック地方企画班員、るもいスポーツクラブ「このゆびとまれ」）

Q6：指導者の横のつながりがない

指導者と事務局の連絡は綿密にとれていますが、異なる種目の指導者同士で、横の連絡が取りにくい状態です。指導者の連絡部会を立ち上げましたが、忙しいせい出席率が悪いです。指導者の横のつながりをどのように作ればよいのでしょうか。

A そもそも、「指導者間の横の連絡を取りたい」のは指導者のニーズではなく、クラブ側の一方的な思いになってしまっていないでしょうか？ 指導者の一番のニーズは自分の指導力を向上し、参加者に喜んでもらうことだと思います。そのこと自体は指導者間の横のつながりがなくても達成できることです。

それをふまえて横のつながりをつくるのならば、「指導の悩みや課題を共有し、課題解決に向けてのきっかけを求める」といったテーマで勉強会を開いたり、時には外部から講師を招いての講習会などを織り交ぜたりしながら、指導者にとって有益な会合を開くべきでしょう。また、その中でクラブの理念や思いを伝えていくことも非常に大切なことです。

ただし、指導や大会引率等で忙しい指導者にとって、限られた時間の中で連絡部会等の会議が増えること自体がストレスになる場合もあることには十分注意した方がよいでしょう。

(西村貴之 北信越ブロック地方企画班員、NPO 法人クラブパレット)

A 異なる種目の指導者間の横の連携は、クラブ運営に必ずしも必要不可欠なものではありません。

横の連携が何のために必要か考えてみましょう。情報の共有、所属意識の醸成、指導についての意見交換等ですね。これに一番効果的なのは、コミュニケーションでしょう。理念を同じくする同志との触れ合いは、明日の指導の活力になります。

事務局と指導者の連絡は密とのことですが、これが一番重要ですね。私は、スムーズな運営体制の確立は、運営スタッフと指導スタッフの明確な役割分担のうえに成り立つと考えます。

指導者がいればこそこのクラブです。出席率が悪い部会は開催回数を減らし、楽しい飲み会を開いてみてください。アクティブなクラブになりますよ！

(藤川佳久 中国ブロック地方企画班員、SA スポーツクラブ)

【施設関連】

Q7：学校の協力がなかなか得られない

近くの小学校で、子ども達にニュースポーツの紹介をしたり、PTA役員会でクラブの趣旨・活動の説明をしたり、なるべくクラブを理解していただく機会を設けていますが、学校施設を優先的に利用できるようにはなりません。今後、何をすれば効果的でしょうか。

A 学校施設の優先利用は学校長権限になると思うので、学校長へクラブを理解してもらうことが第一だと思いますが、そうは言ってもなかなか理解してもらえないのが現状です。やはり学校を統括する教育委員会を動かすことが早道でしょう。教育委員会基本方針の中に「総合型地域スポーツクラブの育成」を盛り込んでもらえば何かにつけて優遇されることが可能になります。

教育委員会向けに役員でクラブの趣旨、現状を説明してもいいし、理解ある議員に議会等で意見を述べてもらうのも一つの方法だと思います。議員にもクラブの理解者を得ることは大切なことです。とにかく学校は地域との交流を大切にすることを目指しています。しっかり話し合い理解を求めれば優先利用は可能になると思います。

(奥松成安 九州ブロック地方企画班員、いいの夢クラブ)

A 学校との連携については、地域によって状況は様々ですが、まずは学校にもっと理解を求める事が必要でしょう。学校が求めているものは、スポーツのトップアスリートの招聘もありますが、文化部門の講師派遣、学校文化祭への協力等、スポーツ以外の関わりが意外に期待されています。

また、あるクラブでは、児童・生徒をクラブのイベントにスポーツボランティアとして参加してもらい、その代わりに、スポーツボランティア理論を簡潔に教えてくれる大学の先生を学校に派遣しているクラブもあります。小さなことでも構いませんので、とにかく学校との連携は密にして、お互いに困った事があれば相談できる環境を整えておきましょう。

ただし、学校にはルールがありますので、出しゃばり過ぎてしまうのは最悪です。一つ一つの積み重ねが学校との信頼関係を強くし、時間を経て、施設の優先利用にもつながっていくでしょう。

(関口昌和 中国ブロック地方企画班員、よろずや広島北)

▼参考：メルマガ60号 <特集> 困った！ こんな時、どうする？ (平成22年10月発行)
あなたの「困った」に、お答えします！

http://www.japan-sports.or.jp/local/news/uploadFiles/20101020172627_4.pdf